



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 平成29年09月25日 第837号「週刊五十嵐レポート」

トップで決まる

「東芝の悲劇」(幻冬社)を読んだ。

「名門の東芝は、声望にあぐらをかいた歴代の経営者によって内部から崩壊していった。その凋落と崩壊は、ただただ、歴代トップに人材を得なかっただけであった。彼らの歴代トップは、その地位と報酬が20万人の東芝社員の働きによってもたらされていることをすっかり失念してきた。それが東芝の悲劇であった」と書かれている。

歴代のトップがその地位に登りつめた過程を詳細に書かれている。人一倍の情熱と努力で成果を出し、評価されてトップに立った。ビジネスマンとしては飛び抜けた能力を持っていた。しかし、経営者(トップ)としては失敗した。マネジメントのトップになったというのではなく、権力者になってしまった。

中小企業の場合(従業員100人以下の規模)、会社は社長で96%決まるといわれている。東芝を見ていると、20万人規模でも会社は社長(トップ)で決まってしまうということが解る。社長が威張り、自己中心に行動すると、そのときは気分がいい。しかし周りの従業員の関心が内向きになり、顧客や競争相手である外部に向かなくなる。業績は悪くなり、後で苦労し、気分が悪くなる。

組織は経営目標を達成する手段の一つ。会社内部の人間関係は、外部(お客)活動を円滑にするためにある。目的と手段。履き違えてはいけない。経営の源である顧客と自社の仕事を妨害する競争相手は会社の外にいる。業績を良くするには社内の関心を外部に向けるようにする。社長は、従業員をより多く外に向けるように誘導することが組織運営で一番大事になる。ダメ会社の社長は威張るので、従業員の関心が社長に向くようになる。

「東芝の悲劇」から優秀なビジネスマンが必ずしも優秀な経営者とは限らないということを教えてくれる。戦略と戦術が違うように、仕事のスキルと経営のスキルは違う。仕事の延長に経営(上に立つ)があるのではない。

「東芝の悲劇」の本の中に、「謙虚」と「感謝」という言葉が出てこない。権力者になるとこれらの言葉が消えてしまうのかもしれない。

ちょっと
気になる出来事

今週もNHKBSの「クールジャパン」鉄道編の続き。

外国人が日本の鉄道でクールなものとして、

- ①トイレが綺麗。
- ②時間通りに来る。
- ③特に東京近郊は、鉄道の集積度が高く、便利。など。

逆にノット・クールは、

- ①お年寄りや妊婦に対して席を譲らない。
- ②痴漢が多い。

外国人からはスマホを見ていたり、寝たふりをして席を譲らないと見えるらしい。そしてほとんどの外国人がなぜこんなに痴漢が多いのか驚いていた。

痴漢に対して日本は「甘い」ということか・・・。



一口メモ
知識

卓越性情報

自社の強みにに関する情報。リーダーの地位を得るには、他社にはできないこと、あるいは少なくとも、他社にはかろうじてしかできないことが、容易にできなければならない。

リーダー企業となるには、市場や顧客の価値と、生産者や供給者としての自らの特別の能力とを、統合する能力が必要である。

リーダーの地位に必要な強みとして、「何をすでもっているか」「あるいは何を手に入れなければならないかを、いかにして知るか」「自らの強みが、向上しているか低下しているかを、いかにして知るか」「自らの強みは、現在でも適切か、いかなる変化が必要かを、いかにして知るか」

自社および競争相手の仕事を丁寧にフォローし、予期せぬ成功を見つけ、さらには、成功するはずだった領域での予期せぬ失敗を見つけることである。予期せぬ成功は、市場が評価し、支払いを行ってくれるものを明らかにする。それは、リーダーの地位を得る上で必要な優位性の存在を教える。

P.F.ドラッカー 「チェンジ・リーダーの条件」より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日 午前10時～12時
- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週水曜日 午前10時～12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

(株)五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

Tel03-3659-7703 Fax03-3659-7077 i-daruma@igarashireport.com

